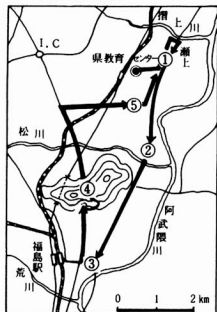


野外観察ルート



地域素材の教材化の事例 (小学校社会講座, バス利用による 3 時間半コース)

地 域 (○印下車地)	観 察 ・ 調 査 ・ 表 現 の 主 な 項 目		
	低 学 年	中 学 年	高 学 年
1 瀬 上	・りんごづくりの工夫	・商店街のようす	・旧宿場町の町並み
2 本 内	・施設栽培の広まり	・郊外の都市化	・川や堤防の変化
3 杉妻・大町	・交通量と安全施設	・中心商店街のようす	・旧郭内と官庁街 ・旧町人町と商店街
④ 信 夫 山	・絵地図づくり	・まちのようす	・柚作りと気温の逆転
⑤ 卸町(卸売市場)	・安全や衛生面への配慮	・消費生活と流通機構	・生活物資の輸入状況

ねらいと地域の実態に即して位置づけている。

3 地域学習と野外観察

低学年に引き続き、中学年の地域学習において、観察は重要な学習形態の一つである。野外観察や見学の強味は、何としても、具体的事実の示す迫力にある。これが子どもの対し方を新鮮にし、真剣なものにする。「百聞は一見に如かず」の言葉のとおり、口で説明されても分からないことを一気につかんでいき、そこから自分の考えを発展させる場合が多い。

観察の方法としては、個体観察、比較観察、数量観察などがその基本となる。観察させる際には、形や大きさ、はたらきや動き、分布や位置関係、時間的变化などに着目させて、ねらいや対象に応じて適切に行う必要がある。地理的な面における観察では、「個体(点)的」→「線的」→「面的」把握へと観察力を高めていく必要があろう。すなわち、山がある、大きな建物がある、という個体的把握から、道に沿って集落が並んでいる、川の周りに水田が広がっている、などと線的・面的な把握へと発展させ、更にその理由にも気付かせるようにする。つまり、観察を意味あるものにするためには、知識や技能はもちろんのこと、思考する力が大きく左右すると考える。

次に、教科学習における野外観察の進め方と実施上の留意点について、その概要を順を追って述べる。

(1) 学年始めの計画

- ・ 学年の目標に照らし、野外観察を行う単元を決め、指導計画に位置づける。
- ・ 社会科だけでなく、他教科や学校行事を勘案し、実施の時期・回数などを決め、実施までの準備について計画する。
- ・ 教師自らが学区等について十分調査して、指導目標を達成するために効果的な基礎的・基本的観察事項を精選する。

- ・ 計画案を提出し、校外での指導に対する校長の許可をえておく。

(2) 実施前の準備

- ・ 観察ルート、観察地点に従ってコースタイムを組み、観察事項について習熟しておく。必要に応じて、見学の下交渉や資料提供を依頼しておく。特に危険箇所、道路事情などを十分確認し、子どもの安全確保に万全の配慮をする。
- ・ 学年内の打ち合わせを行い、具体的な指導計画を決め、実施要項を作成する。実施要項には、実施日と時間、学習目標の要点、ルートマップ、当日の服装、諸注意、携行用具などを記入しておく。
- ・ 何をどのような観点から観察するか、観察したことをどのように記録し、整理するかについて、具体的な見通しが持てるように事前指導する。
- ・ 農家、商店などを訪問・見学する場合には、あらかじめ連絡を取り、目的、日時、人数、依頼事項などについて了解をえておく。

(3) 観察時の指導

- ・ 出発に先だって万全を期すために、出欠状況、健康状態、服装、携行用具を点検したり、観察目標、実施上の留意点、ルートなどを再確認したりする。
- ・ 集合時刻と場所、説明・注意すべきことは、グループ活動などで解散する前に連絡しておく。
- ・ 観察地点では、常に今どこにいるか地図上で確かめさせると同時に、何を観察し、何を記録すればよいか手順よく細かく助言し、分かったことはその場で書かせる。
- ・ 説明は具体的に、簡潔に、明瞭にする。教師は景観を説明するのに「あれ」とか「あそこ」とかの代名詞を使いがちであるが、必ず観察目標になる事物を基準にして具体的に子どもに指示する。
- ・ 農家や商店を見学する場合には、教師が司会役になって話を展開すると、学習活動を焦点化しやすい。

(4) 観察結果のまとめ